

◎学校給食運営審議会における検討経過

1 第1回会議（令和6年9月24日）

（1）議事

- ・ 諮問
- ・ 給食運営の現状について（意見交換）

（2）会議概要

〔意見概要〕

（現状について）

- ・ 食材料の価格高騰により献立作成が困難になっている。
- ・ 「生きた教材」としての献立を立てることが難しい状況となっている。
- ・ 子どもたちの成長、適切な栄養摂取の観点から給食の果たす役割は大きい。
- ・ 献立作成の工夫には感謝しているが、品数の減少などを感じることもある。
- ・ 工夫による提供内容の変化により、残食も増えつつある。

（今後の給食費について）

- ・ 現行の給食費による献立作成は非常に厳しい状況であり改定はやむを得ない。
- ・ 保護者に対して丁寧に説明し理解していただくことが重要である。
- ・ 値上げは、生活が苦しい家庭にとってはインパクトがある。何らかの暫定措置などがあれば保護者の理解を得やすいのではないか。
- ・ 頻繁に給食費を改定されるのは好ましくないと思う反面、長期的な物価上昇を見据えると改定当初の給食費が高額になるという課題もある。
- ・ 近年の物価高騰は戦後直後を除けばあまり例がないのではないか。

2 第2回会議（令和6年12月10日）

（1）議事

- ・給食費シミュレーション案の検討
- ・答申内容の検討

（2）会議概要

ア 給食費について

下記シミュレーション3案について検討を行った結果、案②が妥当となった。

【案①】物価高騰に対応するために必要となる単価

〔小学校〕 310 円 〔中学校〕 390 円

【案②】給食内容の改善に必要な単価

〔小学校〕 330 円 〔中学校〕 395 円

【案③】給食内容の改善に必要な単価

〔小学校〕 350 円 〔中学校〕 400 円

<参考> 現行の給食費

〔小学校〕 260 円 〔中学校〕 330 円

[意見概要]

- ・物価高騰のみ反映させた増額の場合、現状の献立と同様の状況が継続し、給食内容の改善につながらないため、一定程度の増額は必要である。
- ・高い額の方が子どもたちにとってより望ましい献立を提供しやすいが、一方で、大幅な増額は保護者の負担感が大きく、ひいては未納者が増える可能性もある。
- ・物価上昇額の予測は難しい面があるので、今回の給食費の改定後、物価高騰に対応できているか、献立の改善が図られているかなどを、審議会として継続的に注視していく必要がある。

イ 答申について

当日の審議内容を基に、委員長による内容整理を行った後、年内に答申を教育委員会に提出することとなった。

3 答申（令和6年12月25日）

審議会委員長により教育委員会に対し答申の提出があった。

【横須賀市学校給食運営審議会委員】

	区分	役職等	氏名	備考
1	学識経験者	神奈川県立 保健福祉大学教授	鈴木 志保子	委員長
2	保護者	夏島小学校保護者	加藤 真 紀	
3	保護者	追浜中学校保護者	強力 陽	
4	学校教育関係者	根岸小学校校長	三浦 匡	
5	学校教育関係者	大津中学校校長	堀江 宏 保	委員長 職務代理者
6	学校教育関係者	鷹取小学校総括教諭	鈴木 理 恵	
7	学校教育関係者	田浦中学校教諭	西川 美 樹	
8	学校教育関係者	野比東小学校栄養教諭	都甲 さゆり	
9	学校教育関係者	池上中学校栄養教諭	加藤 勝 大	
10	市職員	民政局健康部 保健所生活衛生課長	依田 隆 治	
11	市職員	横須賀市立長浦小学校 学校給食調理員	中村 光 代	
12	市職員	横須賀市立大津小学校 学校給食調理員	前田 佐和子	

任期：令和5年6月1日～令和7年5月31日